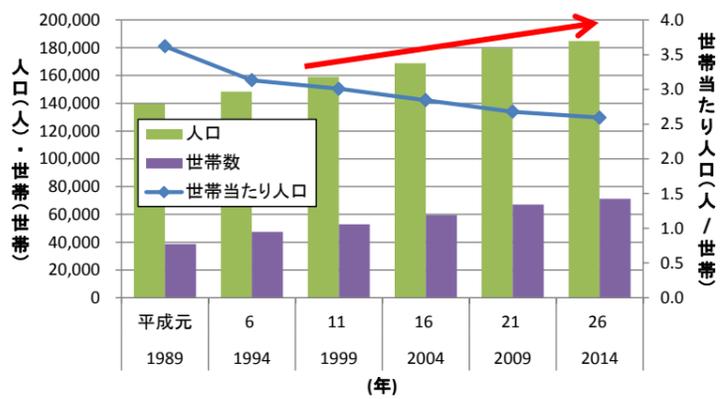
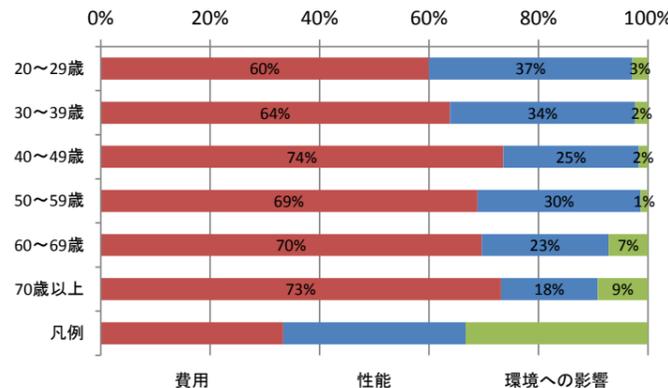
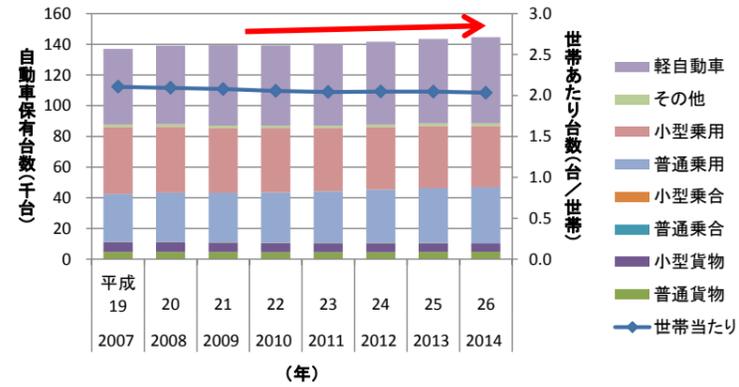


A 現 状	B 課 題	C 自由意見欄
<p><b>1. 低炭素・エネルギー分野【低炭素分科会】</b></p> <p>人口・世帯数が増加傾向にあり、市全体の環境負荷が増加する傾向がある。</p> <p>世帯あたり人口が減っており、一人あたりのエネルギー使用量が増加する傾向がある。</p>  <p>資料：安城の統計 図1 人口・世帯数の推移</p> <p>環境に良いという利点だけでは、コストをかけてまで行動に移す人は少なく（自動車・家電の購入、電力の選択等）、補助金の充実を求める声が多い。ただし、年齢が高くなるほど地球環境への負担が少ないことを重視する人が増える。</p>  <p>資料：アンケート 図2 自動車や家電の購入時に重視する点</p> <p>地球温暖化の影響を感じている人は全体の9割であるのに対し、対策を「実行している」人は1割、「実行したい」人は7割。</p>	<p><b>1. 低炭素・エネルギー分野【低炭素分科会】</b></p> <p><b>1) エネルギーマネジメント</b></p> <p>◇市全体の環境負荷が増加する傾向があり、さらに世帯あたり人口が減っていることから、一人あたりのエネルギー使用量が増加する傾向があり、エネルギー使用の削減が急務である。</p> <p>◇市の事務事業に関する温室効果ガス排出量の現況が把握されておらず、取り組みも含めて市の温暖化対策の実態把握が必要である。</p> <p>○EV・PHV、FCV、太陽光発電に比べ、HEMSの認知度が低く、情報を提供する必要がある。</p> <p>○地球温暖化対策の行動のメニューを示す、あるいは行動のハードルを下げる工夫が必要である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>審議会委員記載欄（1-1 エネルギーマネジメント）</b></p> </div> <p><b>2) 再生可能エネルギー</b></p> <p>◇年間を通じて日射に恵まれており、太陽エネルギー利用による環境負荷低減が期待される。</p> <p>○年齢が高くなるほど地球環境への負担が少ないことを重視する人が増えるため、高齢者の活動を支援する必要がある。</p> <p>○再生可能エネルギー発電事業は、「生活への支障」を気にする人もいるため、メリット・デメリットを周知する必要がある。</p> <p>○再生可能エネルギーに関する知識は「言葉ぐらいいは」という人が最も多く、再生可能エネルギーへの理解を深める必要がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>審議会委員記載欄（1-2 再生可能エネルギー）</b></p> </div>	

A 現 状

3) 交通手段

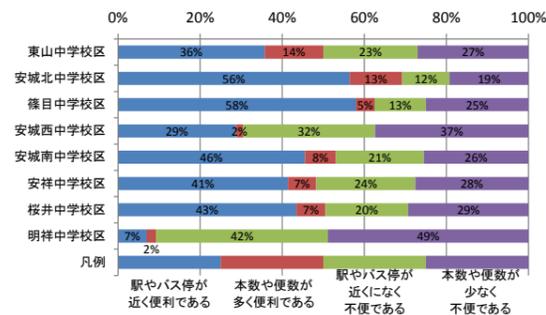
市内の自動車保有台数は増加傾向にある。車種では、軽自動車が最も多い。世帯当たりで保有台数をみると、概ね1世帯で2台保有していることになる。



資料：安城の統計

図3 自動車保有台数の推移

最も「不便」が多いのは明祥中学校区で、次いで安城西中学校区。



資料：アンケート

図4 公共交通機関（電車・バス）の利用に対する意見

B 課 題

3) 交通手段

◇市内移動には自動車に依存する傾向があり、自転車や、次世代モビリティの利用拡大を図る必要があるものの、高齢化社会を迎え、交通弱者への対策が求められる。

○公共交通を日常的に利用する人は1割で、路線バスはさらに少なく1%である。

○公共交通が便利と感じる人と不便と感じる人の割合はいずれも5割で、市南西部在住の方は、不便を特に強く感じ、自家用車に依存する傾向がある。駅やバス停が近いことが便利と感じるポイントであることから、バスの路線を検討する必要がある。

審議会委員記載欄（1-3 交通手段）

C 自由意見欄

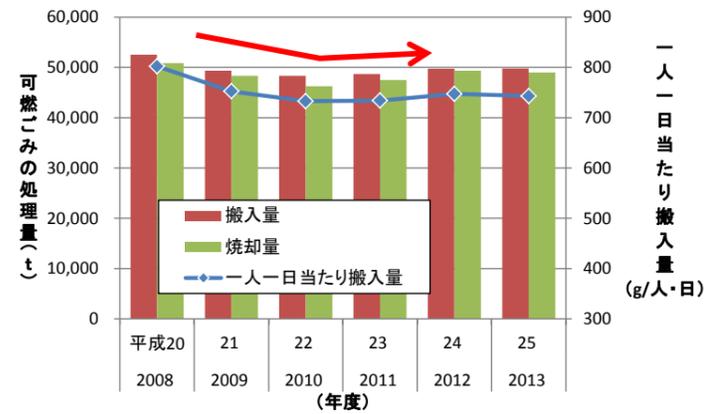


A 現 状

3. 資源循環【資源循環分科会】

1) 廃棄物の削減・資源化の促進

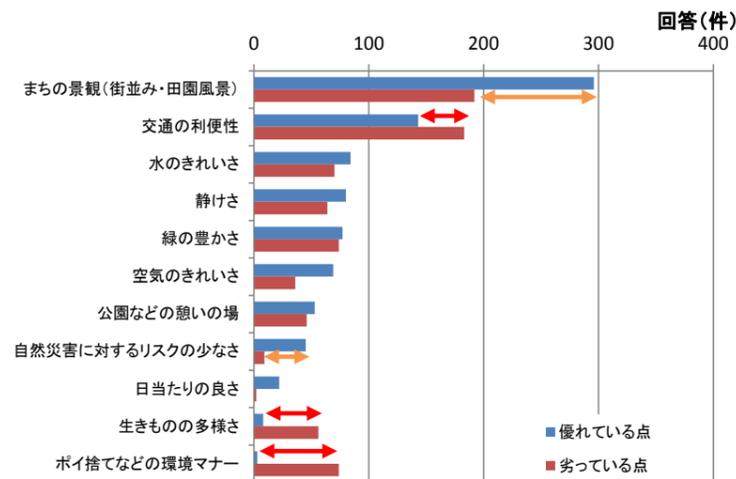
一人一日あたりの可燃ごみ搬入量が近年増加傾向にあり、資源ごみの収集量も減少傾向にある。



資料：安城の統計

図7 ごみ処理量の推移

2) 廃棄物の適正処理



資料：アンケート

図8 優れている点と劣っている点

B 課 題

3. 資源循環【資源循環分科会】

1) 廃棄物の削減・資源化の促進

- ◇一人一日あたりの可燃ごみ搬入量が近年増加傾向にあり、資源ごみの収集量も減少傾向にあることから、廃棄物削減に対する意識の強化が必要である。
- ◇ごみ発生量等について、一部数値が整理されていないものがあるため、今後は何らかの形で進捗を把握する必要がある。

審議会委員記載欄 (3-1 廃棄物の削減・資源化の促進)

2) 廃棄物の適正処理

- ◇1997年に完成したクリーンセンターの老朽化対策が必要である。
- 「ポイ捨てなどの環境マナー」も、劣っている点の回答が優れている点の回答を大幅に上回っており、安城市の弱みと言える。平成26年12月に制定された「安城市さわやかマナーまちづくり条例」の施行・周知と併せ、対策が急務である。

審議会委員記載欄 (3-2 廃棄物の適正処理)

A 現 状	B 課 題	C 自由意見欄
-------	-------	---------

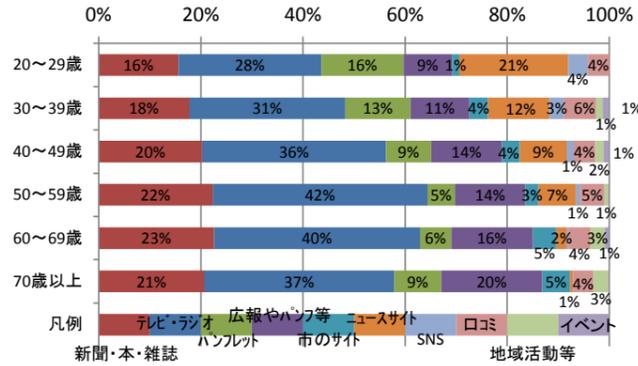
**4 環境教育・啓発**

**1) 環境教育の推進**

環境関係の団体・制度等の認知度は3~4割と低く、関連するイベントに参加した経験があるのは数%であった。

「テレビ・ラジオ」、「新聞・本・雑誌」に次いで、「安城市の広報・パンフレット」の利用者が多い。

安城市のウェブサイトや SNS など新しいメディアは全世代を通じて活用されていない傾向がある。

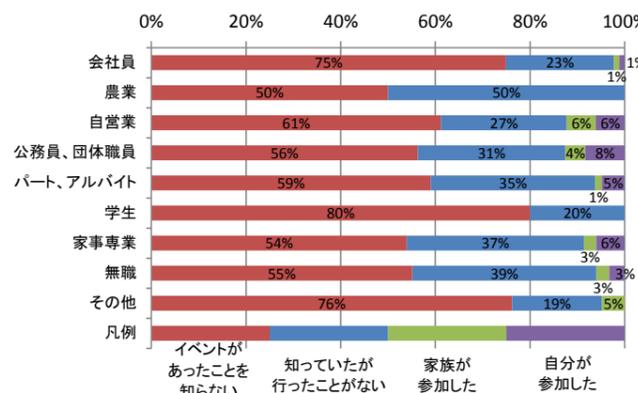


資料：アンケート

図9 環境問題について情報を得る主な手段

**2) 協働の推進**

環境関係のイベントの認知度は6割、参加率3割と低い結果であった。「イベントがあったことを知らない」のは、会社員が多い。自営業、公務員、パート・アルバイト、家事専業等は「自分が参加した」人が多い。



資料：アンケート

図10 安城市内で開催された環境関係のイベントへの参加について

**4 環境教育・啓発**

**1) 環境教育の推進**

◇図書館における読み聞かせの他、保育園・幼稚園、児童センター、小中学校等で子供に対する環境学習を実施しており、引き続き実施する。

◇環境アドバイザー、まちづくり人材やコーディネータ等の養成講座により、協働を担う人材を育成している。

○環境問題に対する情報源としては、市の広報を半数以上の方が回答していることから、今後も活用する。

**審議会委員記載欄（4-1 環境教育の推進）**

**2) 協働の推進**

○環境関係のイベントは特に会社員の認知度が低く、周知する必要がある。

○「会社員」「農業」「公務員、団体職員」は地球温暖化対策の影響の「実感がない」人が多く、対策をすでに実行している人も多くはないため、これらの人々を巻き込む仕組みづくりが必要である。

**審議会委員記載欄（4-2 協働の推進）**

今回いただいたご意見は、環境基本計画の体系（現行計画では、「都市基盤」「農業・産業」「ライフスタイル」「地球環境」と項目分けがされているもの）を作成する際の検討材料になります。いったん事務局で集約してから、会議で資料として活用いたします。

## 記入方法

この課題抽出記入シートを基に、当日の環境審議会分科会を進行します。

大項目ごとに分科会の分野別となっています。「1 低炭素・エネルギー分野」が低炭素、「2 生活環境」が生活環境、「3 廃棄物対策」が資源循環、「4 環境教育・啓発」が全分科会共通です。

ご自身が出席する分科会以外の分野についても、可能な限りご意見を記載ください。（当該分科会開催時に情報共有し、進行に役立てたいと考えています）

A 現状…この欄には、資料2・3から抜粋した情報が掲載してあります。B・C欄を記載する際の参考にしてください。

B 課題…この欄には、資料4から抜粋した情報が掲載してあります。この欄の「審議会委員記載欄」に項目に関連したご自身が感じる課題や意見をご記載ください。記入欄が足りない場合は、「C 自由意見欄」や、別途任意の様式に記入してください。その場合、関連する項目（例：1-1 エネルギーマネジメント）も合わせて記載しておいてください。

C 自由意見欄…下記のような意見を記載ください。あらかじめ用意された項目（例：1-1 エネルギーマネジメントなど）にこだわる必要はありません。

- ・生活や仕事の中で普段感じていること。（最近、こういうことがあった。ニュースを見ていてこんなことを思ったなど）
- ・今回の資料だけでは不足と感じる項目のこと。（もう少しこの分野を追加してはどうかなど）
- ・分かりづらい項目のこと。（用語が分かりづらいなど）